

自然物を額に應用することについて

神戸幼稚園 望 月 ク ニ

私は此年になるまで餘り多く名畫を見たことが

ありませぬ。有名な西洋畫でも眞物でない印刷物ではどうも其美に打たれることが出来ませぬ。毎年の帝展や國展などでも眞に心から感動することが尠いのは全く私は憐れな感受性の不充分な人間なのでせうと深く思ふことがあります。多くの人は景色のよい處を見るとこれは繪に書いた様に美しくいと申しますから、繪は實に自然の美をあつめたものに相違ありませぬが貧乏な私共はとても左様な良い繪を求めることが出来ませぬから、せめて自然に接してのみ得る澄み渡つた様な靜寂な氣もちを表はしたいと思ひまして、自然物を以つ

て來て額を作つて見ました。

自然物を額に入れるには普通の額縁、裏に細い木を打ちつけて、部を厚くし紙の代りに綿を敷くことを考へました。此綿を入れるのは平面でない厚みのある木の實や木の枝を入れるに凹ますことの必要があるからであります。方法は先づ普通の額の裏にする板を置き其上に適當な厚さに綿を敷き其の綿の上に實物を按排して構圖を爲し出來たときガラスを其圖の上に載せソツと額縁をかぶせるのです。然して之を動かさぬ様に裏返し釘で裏板をとめます。其出來上つた時のいき／＼したすが／＼しさは何とも云へま

せぬ。

親友膳まき子姉は自然物利用の先覺者でありま
す。同姉と山に野に遊ぶときは一步一步名もわか
らぬ様な草や花石や木の實貝など何でも彼でも拾
ひ取られやがて其れが美化されて膳姉獨特の畫と
調和して美しい可愛らしい恩物となります。無風
流な私もいつの間にも姉の感化を受けた爲でせ
う、自然に夫が面白くなつて來ました。昔時から水
は方圓の器に従ひ人は善惡の友によると申します
朱に染れば赤くなるなどよくいふたものです。私
も丸い小さい果實を見たりすれば人の顔にしたく
なり、ユウカリの實は帽子、牛の毛草は蓑になる
など際限もなく考へさせられます。

先日臺灣から木瓜を貰つて食しました。其種子
が實に澤山で黒く小さく金平糖の様なので何か
になると大切に置き置きました處早速粘土のお
猿の眼にもつてこいでしたし、自然物の額の花

壇の輪廓には丁度よろしく雅味がありました。

かく見るものゝ凡てが我藥籠中のものになる
やうな氣がしまして、一草一木一果一石が生きて
來て我用をまつかと思はれます。夢中で子供と共
に作つた其圖案其れは人から見れば極めて拙い下
手なつまらないものかも知れませんが、自分とし
ては苦心すればする程ミレーの作にも勝つた様な
嬉しさで、田中、松永等の先生たちと澤山作つて
見ました。おもしろいものです。

併しながら生物のは其生命を失ふと共に色のあ
せることが悲しく感ぜられます。

七面鳥を思ひつきバラ、金仙花、矢車、パンジ
ーなどの花瓣で作りました。パンジーの紫はピ
ロードの羽の様で首の廻りやさかかはバラの眞
紅や淡紅色で目も醒むる斗り、眼は藤の實、足
はエニシダの實、嘴は藤の實のさや、出來上つ
た時の盛裝はとても實物も及ばぬばかり、美し

さに一同驚喜いたしました。飽かず眺めてゐましたが、五六日するとバラの花から變色し、次第／＼に鳥が生命を失ひかけて來ました。私共は落膽いたしました。今度壓し花にして見ましたが夫れは大分長く保ちましても、生花の様な清新さがありませぬ、自然のものをを用ふることの第一義は其清新さにあるのでありますからこれは先づ失敗の部に入れました。

私共は負惜しみを申します、「生物の額は度々取の替へて新鮮な處に生命があると」しかし紅葉や縁葉でしたものは己に一年になつて猶色あせぬのがあります。概して黄色の花は變色し難く随分長く保ちます。種子や貝で作つて置けば百年でも大丈夫であります。

幼児に草など取らせて額を作つて居れば必ず幼兒は感心して「先生はお上手ね」といふて賞めてくれます。小さい一葉、細かい一果も大切になり

ます。

斯くして自然物を扱ひますことは觀察などと云ふむづかしい智識の事ではなくて、人と自然とが相愛しやつて、そこに一種云ふ可からざる親しみを生じますので、構圖は拙くてもそんな事は問題ではなく、下工程却て雅味がある位であります。

むかし西行が、

ここにまたわれすみうくてうかれなば

松はひとりにならんとすらむ

とよみし心もちがよくわかる様な氣がいたします。

子供と共につくつた自然物の額説明(口繪)
材 料

子供の帽子(金仙花を壓したもの)

小さい子供のかほ(白い貝)

子供の着物は(赤色のもみぢの葉)

蝶は貝と(もみぢの花と實)

紅葉の木の全體とくさは凡て實物

かきね(糸と牛の毛ぐさ)

かきねと草だけ子供の作他は保母の作